

【引受保険会社】



〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

変額保険

グローバルミックス

月次運用レポート

2014年7月

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社



アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エキスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

特別勘定の運用方針について

基本資産 配分比率	運用方針	利用する投資信託	
		投資信託名	委託会社
株式 50%	日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。 基本資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。 運用の決定にあたっては、収益性、安全性、流動性に配慮し、運用環境の動向に応じた資産配分を行います。 (特別勘定の運用は、アクサ生命保険株式会社 ALM & 特別勘定運用部が行います。)	アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
		アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) (適格機関投資家私募)	
		アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)	
		アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)	
		アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) (適格機関投資家私募)	
債券 50%			

※ 特別勘定の運用方針、利用する投資信託および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。

※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

- ・ アクサ生命保険株式会社の「変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・ 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・ 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・ 商品内容の詳細については「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・ 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

変額保険

特別勘定の月次運用レポート (2014年7月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- ・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2014年7月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、TOPIX(東証株価指数)が前月末比+2.13%上昇の1,289.42ポイントで終了しました。

月前半は、6月の米国雇用統計が大幅に改善する一方、ポルトガルでの信用不安への懸念などから揉み合いながら推移しました。月後半は、ウクライナや中東における地政学リスクが高まったことなどにより下落する場面もありましたが、四半期企業決算への期待や円安基調などを好感して上昇基調で推移しました。

業種別(東証33業種)では、資源価格高騰により「非鉄金属」(前月末比+6.77%)が最も上昇した一方、株式市場の低調な売買を受けて「証券、商品先物取引業」(同△5.04%)が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、月前半、6月の雇用統計の大幅な改善や、好業績銘柄が牽引し一時史上最高値を更新する一方、ポルトガルでの信用不安への懸念などから、中旬にかけて揉み合いながら推移しました。月後半は、ウクライナや中東における地政学リスクの高まりや、アルゼンチンが一部債務を履行できない状態に陥ったことなどにより下落し、NYダウは、前月末比△1.56%下落の16,563.30ドルで終了しました。

欧州株式市場は、月前半、ECB(欧州中央銀行)総裁が緩やかな金融政策姿勢を示したことなどにより上昇して始まりましたが、ポルトガルでの信用不安などにより急落し、その後信用不安が一服すると上昇に転じました。月後半は、ウクライナや中東における地政学リスクの高まりなどにより下落した後上昇に転じましたが、アルゼンチンが一部債務を履行できない状態に陥ったことなどにより下落し、市場別騰落率は、英FT100が前月末比△0.21%下落、仏CAC40が同△4.00%下落、独DAXが同△4.33%下落となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、月前半、小動きが続いた後、株式市場の下落や米国の利上げ警戒感の後退などから、金利は低下(価格は上昇)しました。月後半も、欧米長期金利の低下や、日銀買いオペの結果から国債需給の逼迫が意識されたことなどから低下基調で推移しました。新発10年国債利回りは、月末は0.530%となりました(前月末は0.565%)。

日銀はマネタリーベースが年間約60~70兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調節を行いました。無担保コール(翌日物)は0.1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、月前半、雇用統計の大幅な改善などを受けて金利は上昇(価格は下落)した後、米国株式の下落や利上げ警戒感の後退などから低下(価格は上昇)しました。月後半は、ウクライナや中東における地政学リスクの高まりなどから低下した後、雇用関連指標が改善する一方で、米国株式の下落などにより小動きが続きましたが、月末には4~6月期のGDP(国内総生産)成長率が予想を上回ったことなどにより上昇しました。米10年国債利回りは、月末は2.558%となりました(前月末は2.530%)。

欧州債券市場は、月前半、小動きが続いた後、ポルトガルでの信用不安などから低下(価格は上昇)しました。月後半も、ウクライナや中東における地政学リスクの高まりなどや、域内で総じてインフレ率の鈍化が続いたことなどにより追加金融緩和観測が強まり、低下基調で推移しました。10年国債利回りは、月末は1.155%となりました(前月末は1.245%)。

FRB(米連邦準備制度理事会)は、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.0~0.25%を維持しました。ECB(欧州中央銀行)は政策金利を据え置き、年0.15%を維持しました。

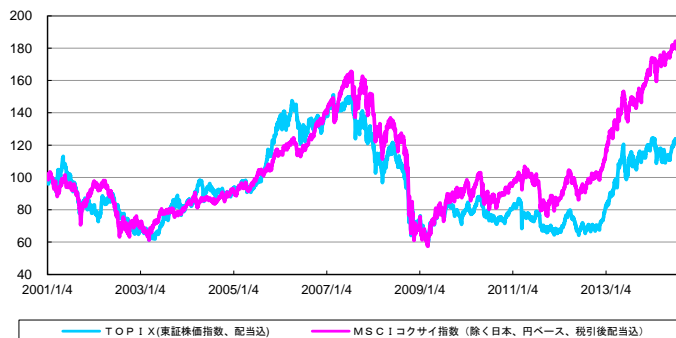
【外国為替市場】

米ドル/円相場は、月前半、米国の雇用統計の大幅な改善などにより円安となった後は、ポルトガルでの信用不安などから低リスク通貨の円買いの動きが強まりました。月後半は、FRB議長が利上げの前倒しの可能性に言及したことなどから円安となる一方、ウクライナや中東における地政学リスクの高まりなどから円高となる場面がありましたが、米国の4~6月期のGDP成長率が予想を上回ったことなどにより円安が進行し、円は対ドルで前月末比1円49銭円安ドル高の1ドル=102円85銭となりました(前月末比+1.47%上昇)。

ユーロ/円相場は、月前半、円安で始まった後、ポルトガルでの信用不安などを受けて、円高基調で推移しました。月後半も、ウクライナや中東における地政学リスクの高まりなどから円高基調で推移していましたが、月末にかけて米景気の回復に伴ってドルが対円で上昇するとの見方に、ユーロも連れ高となり、円安の動きとなりました。円は対ユーロで前月末比51銭円高ユーロ安の1ユーロ=137円80銭となりました(前月末比△0.37%下落)。

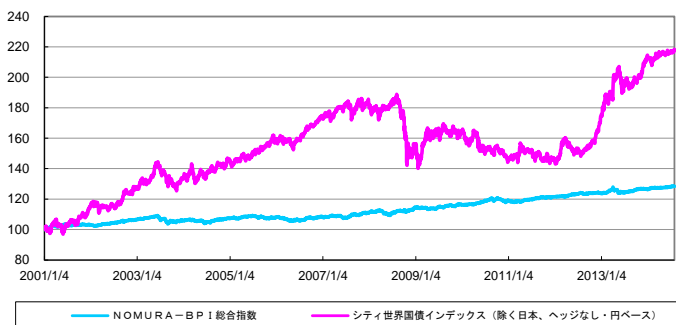
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

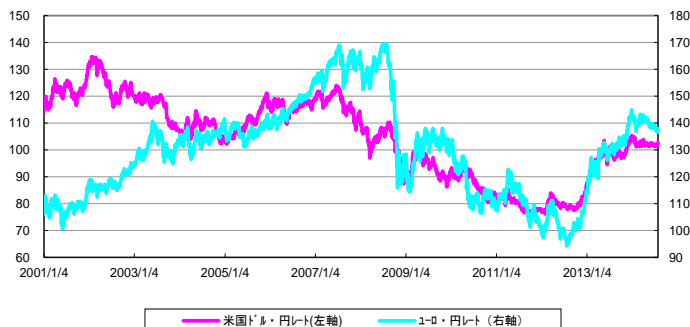


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所:株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

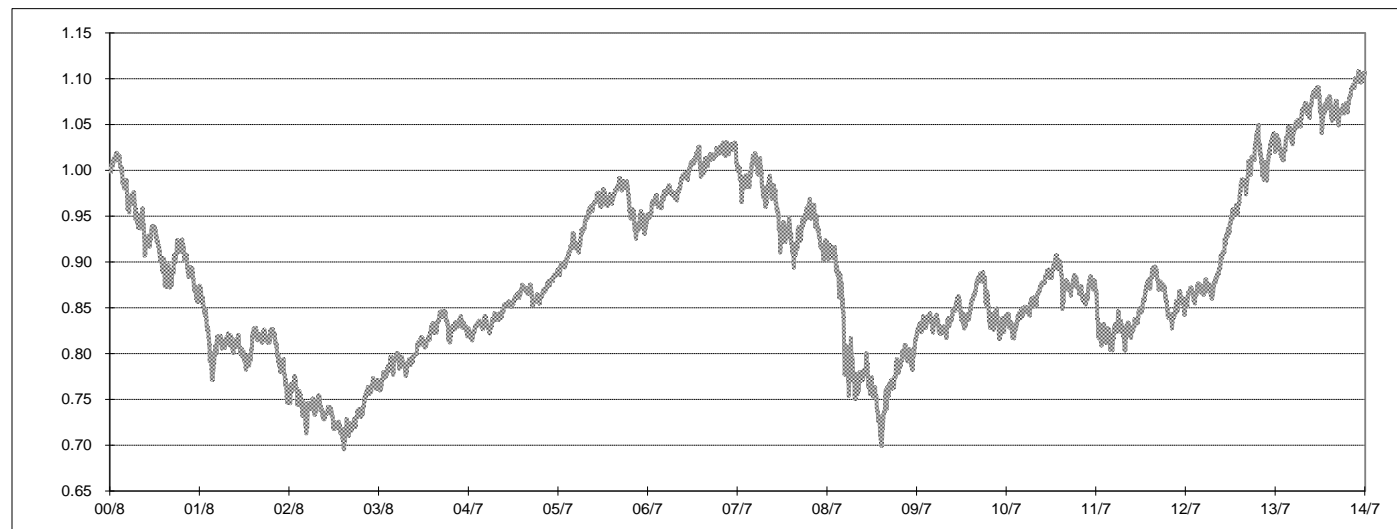
特別勘定の月次運用レポート (2014年7月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2014年7月 末日現在]

■特別勘定のINDEXの推移

※ 特別勘定のINDEXは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



	2014年7月末	2014年6月末	2014年5月末	2014年4月末	2014年3月末	2014年2月末
INDEX	1.105	1.099	1.081	1.065	1.069	1.072
騰落率(%)	過去1ヵ月 0.53	過去3ヵ月 3.74	過去6ヵ月 3.82	過去1年 8.17	過去3年 27.33	設定来 10.50

※ 特別勘定のINDEXは、2000年8月1日を1.00として計算しています。

※ 騰落率は、該当月の月末のINDEXに対する当月末のINDEXの変動率を表しています。

■特別勘定資産の内訳

項目	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	1,814,621	4.3
その他有価証券	40,492,243	95.7
アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A)	4,247,465	10.0
アクサ ローゼンバーグ・日本バリュウ株式ファンド(B)	6,420,874	15.2
アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A)	6,953,927	16.4
アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A)	4,327,646	10.2
アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B)	18,542,329	43.8
合計	42,306,864	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当月のINDEX騰落率等は上記をご参照願います。

資産配分に関しては、基本資産配分を概ね維持しております。(株式部分は、日本株式25%、欧米株式25%の資産配分といたしました。)

今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

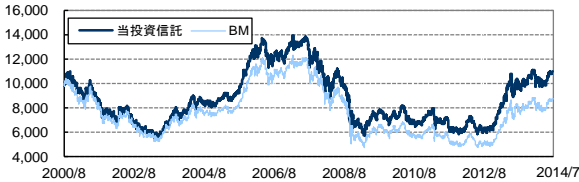
特別勘定の月次運用レポート (2014年7月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)の運用状況

[2014年7月 末日現在]

■ 当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を10,000として指数化しています。

■ 当投資信託の騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	1.91%	10.99%	5.92%	14.78%	58.75%	9.76%
BM	2.13%	10.92%	5.63%	13.94%	53.25%	▲13.03%
差	▲0.21%	0.07%	0.28%	0.84%	5.50%	22.79%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

■ マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 業種別構成比率

業種	マザーファンド
1 輸送用機器	12.52%
2 電気機器	11.53%
3 銀行業	9.72%
4 情報・通信業	7.05%
5 小売業	6.94%
6 卸売業	6.30%
7 化学	6.10%
8 医薬品	4.36%
9 その他業種	34.48%
10 現金等	0.99%
合計	100.00%

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○ 市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	99.01%
2 現金等	0.99%
合計	100.00%

○ 組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 トヨタ自動車	輸送用機器	4.62%
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.52%
3 日本電信電話	情報・通信業	2.20%
4 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.09%
5 ソフトバンク	情報・通信業	1.79%
6 KDDI	情報・通信業	1.71%
7 本田技研工業	輸送用機器	1.57%
8 みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.20%
9 アステラス製薬	医薬品	1.13%
10 日本たばこ産業	食料品	1.09%
合計		20.92%
組入銘柄数		263銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■ 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比+1.91%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前月末比+2.13%となりました。当月の日本株市場では、株価を1株あたりの利益と比較した時に割安であった銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していたその他金融が下落したことや少なめに保有していた建設が上昇したことはプラスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していたヨロズ(7294)や日本電信電話(9432)が上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していた名村造船所(7014)や岩井コスモホールディングス(8707)が下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ~8ページに記載されている「1~4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

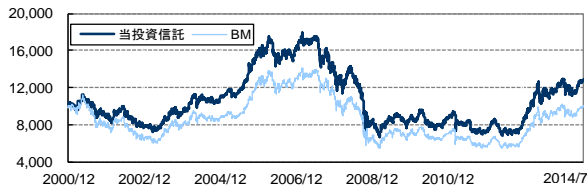
特別勘定の月次運用レポート (2014年7月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B)〈適格機関投資家私募〉の運用状況

[2014年7月 末日現在]

■ 当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■ 当投資信託の騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	2.10%	12.04%	6.35%	15.56%	56.40%	28.56%
BM	2.13%	10.92%	5.63%	13.94%	53.25%	0.01%
差	▲0.02%	1.12%	0.72%	1.62%	3.15%	28.55%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

■ マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 業種別構成比率

業種	マザーファンド
1 電気機器	14.57%
2 輸送用機器	11.15%
3 銀行業	9.15%
4 化学	8.00%
5 情報・通信業	6.93%
6 卸売業	6.70%
7 医薬品	6.07%
8 小売業	4.27%
9 その他業種	30.64%
10 現金等	2.52%
合計	100.00%

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○ 市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	96.84%
2 東京証券取引所第二部	0.39%
3 ジャスダック証券取引所	0.23%
4 名古屋証券取引所第一部	0.01%
5 名古屋証券取引所第二部	0.00%
6 現金等	2.52%
合計	100.00%

○ 組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 トヨタ自動車	輸送用機器	4.17%
2 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.77%
3 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.53%
4 日本電信電話	情報・通信業	2.46%
5 キヤノン	電気機器	2.05%
6 KDDI	情報・通信業	1.98%
7 アステラス製薬	医薬品	1.92%
8 日立製作所	電気機器	1.91%
9 三菱電機	電気機器	1.74%
10 オリックス	その他金融業	1.62%
合計		25.14%
組入銘柄数		129銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■ 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比+2.10%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前月末比+2.13%となりました。当月の日本株式市場は、純資産利回りの高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、少なめに保有していた飲料・タバコが下落したことはプラスに寄与しましたが、少なめに保有していた自動車は上昇したことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた日本電気(6701)や三菱電機(6503)が上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していたイオン(8267)やKDDI(9433)が下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ~8ページに記載されている「1~4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

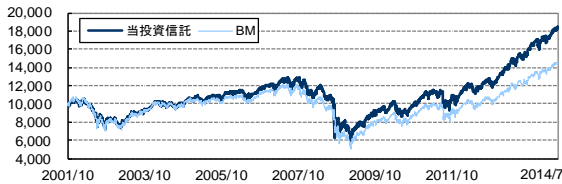
特別勘定の月次運用レポート (2014年7月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A)〈適格機関投資家私募〉の運用状況

[2014年7月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.63%	5.29%	10.58%	19.08%	65.25%	82.24%
BM	0.44%	4.82%	9.68%	16.60%	50.01%	44.14%
差	0.19%	0.47%	0.89%	2.48%	15.24%	38.10%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、S&P500種株価指数²(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A)〈適格機関投資家私募〉

【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として米国の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリューストック)を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※ 当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○ セクター別構成比率

セクター	マザーファンド
1 ソフトウェア・サービス	12.13%
2 エネルギー	11.29%
3 医薬品・バイオテクノロジー	10.46%
4 資本財	8.64%
5 テクノロジー・ハードウェア	7.34%
6 銀行	5.13%
7 食品・飲料・タバコ	4.11%
8 保険	4.00%
9 その他業種	36.46%
10 現金等	0.43%
合計	100.00%

○ 組入上位10銘柄

銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1 APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	3.61%
2 WELLS FARGO & COMPANY	アメリカ	銀行	2.10%
3 EXXON MOBIL CORPORATION	アメリカ	エネルギー	2.07%
4 PFIZER INC	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	1.86%
5 MERCK & CO INC	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	1.62%
6 ORACLE CORPORATION	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.48%
7 MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.42%
8 GILEAD SCIENCES INC	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	1.38%
9 GOOGLE INC-CL A	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.35%
10 GOOGLE INC-CL C	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.34%
合計			18.23%
組入銘柄数			221銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比+0.63%となりました。一方、ベンチマークであるS&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の騰落率は、前月末比+0.44%となりました。当月の米国株式市場は、企業規模の大きい銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で少なめに保有していたことはマイナスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していたソフトウェアが上昇したことはプラスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた医薬品・バイオテクノロジーのGilead Sciences Incが上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していた保険のGenworth Financial Incが下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ~8ページに記載されている「*1~*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

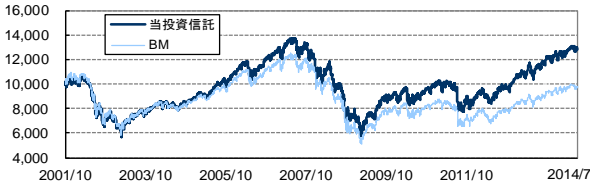
特別勘定の月次運用レポート (2014年7月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーク・欧州株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)の運用状況

[2014年7月 末日現在]

■ 当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

■ 当投資信託の騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定以来
投資信託	▲0.88%	0.36%	5.25%	12.56%	33.49%	27.59%
BM	▲0.79%	▲0.42%	4.08%	9.93%	21.49%	▲3.08%
差	▲0.09%	0.78%	1.16%	2.63%	12.00%	30.67%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCI欧州株価指数³(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■ 利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーク・欧州株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)

【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として欧州地域の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリューストック)を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※ 当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーク・欧州株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

■ マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 国別構成比率

順位	国名	マザーファンド
1	イギリス	29.99%
2	フランス	14.74%
3	スイス	12.95%
4	ドイツ	12.43%
5	スペイン	5.88%
6	オランダ	5.74%
7	スウェーデン	4.84%
8	デンマーク	3.07%
9	その他の国	9.90%
10	現金等	0.45%
合計		100.00%

○ セクター別構成比率

順位	セクター	マザーファンド
1	医薬品・バイオテクノ・ライフ	11.78%
2	銀行	10.33%
3	素材	9.17%
4	食品・飲料・タバコ	9.13%
5	エネルギー	8.59%
6	資本財	8.15%
7	保険	7.98%
8	電気通信サービス	6.05%
9	その他業種	28.37%
10	現金等	0.45%
合計		100.00%

○ 組入上位10銘柄

順位	銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1	HSBC HOLDINGS PLC	イギリス	銀行	2.68%
2	GLAXOSMITHKLINE PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.18%
3	NESTLE SA-REGISTERED	スイス	食品・飲料・タバコ	2.05%
4	ASTRAZENECA PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.95%
5	SIEMENS AG	ドイツ	資本財	1.86%
6	ROCHE HOLDING AG-GENUSSS	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.75%
7	NOVARTIS AG-REG SHS	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.72%
8	BHP BILLITON PLC	イギリス	素材	1.68%
9	RIO TINTO PLC	イギリス	素材	1.54%
10	ROYAL DUTCH SHELL PLC-A SHS	オランダ	エネルギー	1.34%
合計				18.77%
組入銘柄数				202銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■ 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比▲0.88%となりました。一方、ベンチマークであるMSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の騰落率は前月末比▲0.79%となりました。当月の欧州株式市場は、EPS(一株あたり利益)の変動率が高い銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、少なめに保有していた石油メジャーや石油サービスが下落したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していた小売りが下落したことはマイナスに寄与しました。国別ではイタリアの銘柄を少なめに保有していたことはプラスに寄与しましたが、オーストリアの銘柄を多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた素材のBHP Billiton Plc(イギリス)が上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していた医薬品・バイオテクノ・ライフのGlaxosmithkline Plc(イギリス)が下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ~8ページに記載されている「*1~*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

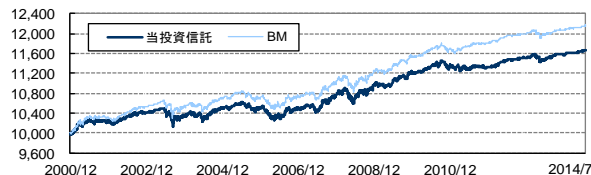
特別勘定の月次運用レポート (2014年7月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B)〈適格機関投資家私募〉の運用状況

[2014年7月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.08%	0.38%	0.48%	1.30%	2.98%	16.64%
BM	0.09%	0.35%	0.53%	1.27%	3.26%	21.62%
差	▲0.01%	0.03%	▲0.04%	0.03%	▲0.27%	▲4.98%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日興債券パフォーマンス・インデックス(総合⁴、中期3年以上7年未満)です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○資産構成

	修正デュレーション	マザーファンド
公社債	4.59年	98.22%
国債	5.44年	71.47%
地方債	0.00年	0.00%
特殊債・財投債	1.88年	2.89%
金融債	0.32年	0.93%
社債等	2.46年	22.93%
その他	0.00年	0.00%
短期資産等*	0.00年	1.78%
合計	4.51年	100.00%

* 債券先物を含みます。

※ 「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

○公社債の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
AAA	0.00%
AA	84.55%
A	12.04%
BBB	3.40%
BB以下(無格付含)	0.00%
合計	100.00%

格付基準:

※ 海外格付機関の格付を優先します。

※ 海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付を採用します。

○組入上位10銘柄

順位	銘柄	国名	クーポン	償還日	格付		マザーファンド
					ムーディーズ	S&P	
1	第303回利付国債(10年)	日本	1.400%	2019年9月20日	Aa3	AA-	8.46%
2	第326回利付国債(10年)	日本	0.700%	2022年12月20日	Aa3	AA-	6.34%
3	第106回利付国債(5年)	日本	0.200%	2017年9月20日	Aa3	AA-	5.79%
4	第305回利付国債(10年)	日本	1.300%	2019年12月20日	Aa3	AA-	5.43%
5	第322回利付国債(10年)	日本	0.900%	2022年3月20日	Aa3	AA-	4.85%
6	第330回利付国債(10年)	日本	0.800%	2023年9月20日	Aa3	AA-	4.69%
7	第109回利付国債(5年)	日本	0.100%	2018年3月20日	Aa3	AA-	3.26%
8	第315回利付国債(10年)	日本	1.200%	2021年6月20日	Aa3	AA-	2.97%
9	第295回利付国債(10年)	日本	1.500%	2018年6月20日	Aa3	AA-	2.94%
10	第298回利付国債(10年)	日本	1.300%	2018年12月20日	Aa3	AA-	2.94%
合計							47.67%
組入銘柄数							49銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

○ポートフォリオの状況

	マザーファンド
平均複利利回り	0.24%
平均クーポン	1.13%
平均残存期間	4.65

※ 「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比+0.08%、一方、ベンチマークである日興債券パフォーマンス・インデックス(総合、中期3年以上7年未満)は前月末比+0.09%となりました。当月の当投資信託は前月からの戦略を維持し、ベンチマーク並みの結果となりました。日銀をはじめとする主要中央銀行の緩和的な姿勢が引き続き支援材料となり、また、ウクライナやイスラエルなど地政学的な懸念が高まったことも安全資産としての国債に追い風となりました。当月末の日本10年国債の利回りは前月末比0.035%低下の0.530%となりました。委託会社は、景気の回復等を背景に日本国債の利回りには上昇圧力がかかる可能性があるかと予想しています。今後の当投資信託の方針として、デュレーション戦略では徐々に短期化を進め、種別戦略ではベンチマーク対比での国債の少なめの配分と非国債の多めの配分を維持する予定です。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

用語説明

- *1 「東証株価指数(TOPIX)」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(以下東証東京証券取引所)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東証東京証券取引所が有しています。
東証東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- *2 「S&P500種株価指数」とは、スタンダード&プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード&プアーズ社に帰属しています。S&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、S&P500種株価指数(米ドルベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- *3 「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、MSCI欧州株価指数(ユーロベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- *4 「日興債券パフォーマンス・インデックス(総合)」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。
同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。また、SMBC日興証券株式会社は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

注意事項

○変額保険の仕組み

変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとづいて変動する生命保険です。

*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

○変額保険のリスクについて

①市場リスク

特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額(有期型の場合、満期保険金を含む)や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

②信用リスク

万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

契約月別の運用実績の例

(一時払、男性40歳加入、基本保険金額1,000万円の場合)

契約日	終身型		契約月別 運用実績 (%)	年複利 (%)
	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)		
平成12年 8月 1日	1,000	-490	10.50	0.72
平成12年 9月 1日	1,000	-498	8.87	0.61
平成12年 10月 1日	1,000	-476	11.98	0.82
平成12年 11月 1日	1,000	-458	14.51	0.99
平成12年 12月 1日	1,000	-437	17.44	1.18
平成13年 1月 1日	1,000	-417	20.03	1.35
平成13年 2月 1日	1,000	-428	17.84	1.22
平成13年 3月 1日	1,000	-394	22.87	1.55
平成13年 4月 1日	1,000	-373	25.63	1.73
平成13年 5月 1日	1,000	-396	21.63	1.49
平成13年 6月 1日	1,000	-388	22.38	1.55
平成13年 7月 1日	1,000	-375	24.07	1.66
平成13年 8月 1日	1,000	-348	27.73	1.90
平成13年 9月 1日	1,000	-310	33.21	2.24
平成13年 10月 1日	1,000	-263	40.03	2.66
平成13年 11月 1日	1,000	-278	37.15	2.51
平成13年 12月 1日	1,000	-283	35.89	2.45
平成14年 1月 1日	1,000	-282	35.46	2.44
平成14年 2月 1日	1,000	-255	39.16	2.68
平成14年 3月 1日	1,000	-262	37.61	2.60
平成14年 4月 1日	1,000	-275	35.11	2.47
平成14年 5月 1日	1,000	-268	35.70	2.52
平成14年 6月 1日	1,000	-270	34.92	2.49
平成14年 7月 1日	1,000	-233	40.14	2.83
平成14年 8月 1日	1,000	-198	45.01	3.15
平成14年 9月 1日	1,000	-195	45.00	3.17
平成14年 10月 1日	1,000	-165	49.13	3.43
平成14年 11月 1日	1,000	-162	49.11	3.46
平成14年 12月 1日	1,000	-175	46.52	3.33
平成15年 1月 1日	1,000	-147	50.36	3.58
平成15年 2月 1日	1,000	-121	53.96	3.82
平成15年 3月 1日	1,000	-114	54.56	3.89

契約日	終身型		契約月別 運用実績 (%)	年複利 (%)
	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)		
平成15年 4月 1日	1,000	-109	54.74	3.93
平成15年 5月 1日	1,000	-124	51.59	3.77
平成15年 6月 1日	1,000	-137	48.99	3.63
平成15年 7月 1日	1,000	-154	45.85	3.46
平成15年 8月 1日	1,000	-162	44.00	3.37
平成15年 9月 1日	1,000	-169	42.41	3.29
平成15年 10月 1日	1,000	-170	41.77	3.27
平成15年 11月 1日	1,000	-179	39.83	3.17
平成15年 12月 1日	1,000	-174	40.06	3.21
平成16年 1月 1日	1,000	-183	38.16	3.10
平成16年 2月 1日	1,000	-193	36.20	2.99
平成16年 3月 1日	1,000	-202	34.27	2.87
平成16年 4月 1日	1,000	-213	32.12	2.73
平成16年 5月 1日	1,000	-211	32.07	2.75
平成16年 6月 1日	1,000	-200	33.21	2.86
平成16年 7月 1日	1,000	-208	31.42	2.75
平成16年 8月 1日	1,000	-191	33.56	2.94
平成16年 9月 1日	1,000	-189	33.29	2.94
平成16年 10月 1日	1,000	-187	33.08	2.95
平成16年 11月 1日	1,000	-182	33.37	3.00
平成16年 12月 1日	1,000	-190	31.62	2.88
平成17年 1月 1日	1,000	-202	29.42	2.73
平成17年 2月 1日	1,000	-200	29.28	2.74
平成17年 3月 1日	1,000	-211	27.25	2.59

注(1) 保険金額は、基本保険金額に変動保険金額を加えた保障額を示したものです。ただし、変動保険金額が負値の場合、保険金額は基本保険金額を表示しています。

(2) 契約月別運用実績は、契約時点で特別勘定に投入した金額の平成26年7月末までの運用実績を示したものです。なお、この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられたものを控除した部分の伸び率です。

(3) 年複利は契約月別運用実績を年複利換算したものです。

(4) 終身型は、平成17年3月31日で販売終了しています。

(5) 有期型は平成14年10月31日で販売終了しています。平成24年10月31日で全ての契約が保険期間を満了しました。